令和７年２月１９日招集

茂原市議会定例会会議録（第３号）

議　事　日　程　（第３号）

令和７年２月27日（木）午前10時00分開議

第１　一般質問

(1)　向　後　研　二　議員
(2)　河　野　英　美　議員

茂原市議会定例会会議録（第３号）

令和７年２月27日（木）午前10時00分　開議

○議長（金坂道人君）　おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。

現在の出席議員は22名であります。したがいまして、定足数に達し会議は成立しました。

――――――――――――――― ☆ ――――――――――――――― ☆ ―――――――――――――――

議　事　日　程

○議長（金坂道人君）　本日の議事日程は、お手元に配付してありますので、それにより御了承願います。

――――――――――――――― ☆ ――――――――――――――― ☆ ―――――――――――――――

一　般　質　問

○議長（金坂道人君）　それでは、これより議事日程に基づき、議事に入ります。

議事日程第１「一般質問」を行います。

昨日からの一般質問を続行します。

本日は、質問順位６番から７番までとします。

質問者であります向後研二議員から、一般質問に関する資料の配付の申入れがありましたので、これを許し、お手元に配付しました。

それでは、向後研二議員の一般質問を許します。向後研二議員。

（11番　向後研二君登壇）

○11番（向後研二君）　皆さん、おはようございます。令和茂原の向後です。

本日より、千葉県知事選挙が始まりました。この間、２月16日に長生村文化会館に熊谷知事がお越しになられ、当初は広域各首長とのトークセッション予定でしたが、予定を変更し、今活躍している、そしてこれから地域を担っていく方々、生の声を聞くために、青年部、ＪＣ、その他団体の若い代表者世代とのトークセッションを行い、非常に良い会談だったと感じました。

そして、時代の流れとともに、変化も現れ始めております。皆さんは御存じでしょうか。１月から５回ほど、財務省前で1000人規模の抗議デモが行われていることを。テレビや新聞には一切取り上げられてはいないのです。もし、知らない茂原市民が多いようでしたら、今後の情報の取り方を、新たな方法として、ＳＮＳも活用してみてはいかがでしょうか。何を伝えたいかといいますと、それほど日本の今は貧困格差が生じ、国民からの意思表示の表れだと思いま

す。これは茂原市をはじめ、各自治体にも同じことが言えることでしょう。市民サービス、要望等を怠ると、市民からの不満の声が大きくなります。住んで良かったと思えるまちづくりを目指し、私も邁進してまいります。そこで、実現するには、市長をはじめ、当局の方々の力が必要であります。よろしくお願いいたします。前置きはこの辺で、本質へと移ります。

まず初めに、災害対策対応、防災について、４点伺います。

１点目、避難所非常用電源について。今年度から、茂原市の指定避難所28か所ある中で、ＰＰＡ方式により公共施設に太陽光発電設備を設置しているところがあるが、改めてその目的と進捗について伺います。

２点目、災害協定企業について。現在の災害協定登録数は60団体ありますが、令和６年度に協定を締結した企業名と、協定内容について伺います。

３点目、ペットの避難について。ペット同行できる場所について、指定避難所28か所中、20か所完了ということで、残り８か所についての今後の見通しについて伺います。

４点目、災害時の情報発信について。市公式ウェブサイトをはじめ、公式ＬＩＮＥ、Ｘ、フェイスブック、インスタ、防災メール等様々ありますが、災害時にリアルタイムで情報を伝える機能としては、ＳＮＳツールが最も効果的と考えるが、そこで伺います。災害時の情報発信における、さも効果的な手段について、市の見解を伺います。

次に、部活動地域移行について。国から、令和５年度より部活動地域移行を推進し、本市も令和６年度、令和７年度へと準備をはじめ、令和８年度より完全に地域移行することと計画しておりました。しかし、地域移行だよりによると、11月に千葉県の計画の一部変更が示され、茂原市学校部活動地域移行推進協議会において協議を行った結果、市教育委員会として、以下のように計画の一部を変更させていただくこととなりましたと書いてありました。また、条件が合った部活動については、従来どおり令和８年度から地域移行を行うことに変わりませんが、地域クラブの受皿が不足する場合は、再募集期間を設け、令和９年度から休日の部活動地域移行の完全実施を目指すことと変更いたしますと。そこで伺います。本市の部活動地域移行、現状の進捗状況を伺います。

次に、令和７年度待機児童について伺います。令和７年度保育所等の入所予定の見込みと状況を教えてください。もう一点は、令和７年度学童クラブ入所予定の見込みと状況も教えてください。

最後に、令和７年度予算編成について、３点伺います。新しい風とともに公有財産の利活用や売却も進んでいて、良い傾向であり、令和６年度歳入における財産売払収入という点では評

価をしております。そこで伺います。

１点目、財産売払収入において、令和７年度予算案と前年度を比較した場合の金額を教えてください。

２点目、令和７年度財調の取崩し金額が約12億円と厳しい状況ではありますが、市の施政方針の中で、子育て支援や内水対策に力を入れていくと書いてありましたが、それ以外に新たに行う主な取り組みはあるのか伺います。

３点目、広域事業で、最終処分場建設において、予算額が当初額より大分高くなったと伺っておりますが、広域負担金について、令和７年度予算案に影響はないのか伺います。

以上が１回目の質問となります。御答弁のほどよろしくお願いいたします。

○議長（金坂道人君）　ただいまの向後研二議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長　市原　淳君。

（市長　市原　淳君登壇）

○市長（市原　淳君）　向後研二議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

私からはまず、災害対策対応、防災についての中で、今年度からＰＰＡ方式により、公共施設に太陽光発電設備を設置している目的と進捗状況についての御質問でございますが、本事業の目的といたしましては、平時においては、再生可能エネルギーの活用により、温室効果ガスの排出削減を図るとともに、災害時においては、避難所の非常用電源として防災機能を強化するものであります。進捗状況といたしましては、今年度、小学校４校への設置が完了したところであり、来年度は、市民体育館への設置を予定しております。

次に、予算編成についての中で、子育て支援や内水対策以外の主な取り組みについての御質問でございますが、令和７年度予算における主な取り組みにつきましては、現在、圏央道の県内区間全線開通や成田空港の機能強化が進められる中、新たな企業等からの市内進出へのニーズに応えるため、また、雇用の確保等の効果も十分期待できることから、新たな産業用地の整備に向けた準備を進めたいと考えております。道の駅設置につきましては、コンセプトや候補地の選定等を検討する基本構想の策定を予定しております。また、英語教育のさらなる推進として、子どもたちの英語力を高め、これからのグローバルな人材を育成するため、市内の中学校に通う中学３年生を対象に、実用英語技能検定、いわゆる英検の検定料を公費負担する制度を設けるなど、少しでも市民サービスの向上につながる施策に取り組んでまいります。

私からは以上です。

○議長（金坂道人君）　総務部長　渡邉正統君。

（総務部長　渡邉正統君登壇）

○総務部長（渡邉正統君）　総務部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

初めに、防災についての中で、令和６年度に災害協定を締結した企業名と協定の内容はとの御質問でございますが、令和６年度は１月末時点で５件の協定を締結しております。１件目は、エートス協同組合と「水没等で立ち往生した車両の移動、管理に関するもの」。２件目は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と「罹災証明等の申請及び発送業務の支援に関するもの」。３件目は、株式会社デベロップと「移動式宿泊施設の確保に関するもの」。４件目は、法華宗大本山鷲山寺と「避難車両の受入れ及び避難者の一時避難所としての施設の提供に関するもの」。５件目は、鷲神社と「避難車両の受入れに関するもの」をそれぞれ締結いたしました。

次に、ペットとの避難について、指定避難所28か所のうち、20か所でペット同行避難が可能とのことだが、残り８か所についての今後の見通しはとの御質問でございますが、残り８か所の指定避難所につきましては、施設の状況等を踏まえ検討いたしましたが、適した場所の確保ができないことから難しいものと考えております。

次に、災害時の情報発信における最も効果的な手段について、市の見解はとの御質問でございますが、災害時には、市内全域に整備されている防災行政無線を用いた情報発信が有効であると考えますが、情報を確実に伝達するためには、受け手や災害の種類等に応じて、メール配信サービスやＳＮＳなどの多様なツールを用いることも重要であると認識しております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　教育長　富田浩明君。

（教育長　富田浩明君登壇）

○教育長（富田浩明君）　教育委員会所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

部活動地域移行についての御質問ですが、休日の部活動地域移行における進捗状況につきましては、まず、柔道部について、令和６年２月から学校部活動と並行して地域クラブでの活動を開始し、同年９月から完全に移行しております。今年度は、バレーボール部の地域移行への取り組みを行いましたが、休日の夜間に受け入れてくれる地域クラブはあったものの、全ての生徒の希望に沿うことができなかったため、令和８年３月まで募集期間を延長したところです。来年度は、茂原市バスケットボール協会が主体となって、中学生を対象とする休日の活動を開始する予定であり、その他の部活動についても準備を進めてまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　福祉部長　中村一之君。

（福祉部長　中村一之君登壇）

○福祉部長（中村一之君）　福祉部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

初めに、令和７年度待機児童についての中で、保育所等の入所等についての御質問でございますが、令和７年度における保育所等の入所申込みにつきましては、公立・私立合計13か所の保育施設で358名の申請があり、282名の入所が内定し、残りの76名が入所保留となっております。入所保留者につきましては、他に入所可能な保育所等の情報提供を市から受けたものの、特定の施設を希望したため保留となった私的待機等が挙げられます。こども家庭庁の統計では、私的待機等は待機児童の数から除外されますので、令和７年４月１日時点の待機児童数につきましては、現在のところゼロとなる見込みです。

次に、学童クラブの入所等についての御質問でございますが、令和７年度の公設・民設学童クラブ合計15か所の入所状況等につきましては、現段階では利用調整中でございますが、629名の申込みに対し、588人が入所をし、41名が待機児童となる見込みとなっております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　企画財政部長　平井　仁君。

（企画財政部長　平井　仁君登壇）

○企画財政部長（平井　仁君）　企画財政部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

令和７年度予算編成についての中の財産売払収入における令和７年度予算案と前年度予算との比較はとの御質問ですが、令和７年度予算案の財産売払収入につきましては、売却を予定する土地について3000万円を計上しております。一方で、令和６年度予算につきましては、8513万5000円を計上いたしました。それぞれの年度を比較いたしますと、令和７年度予算案は、令和６年度予算に比べ5513万5000円の減となります。

次に、最終処分場の建設費用が当初の見込みより増えるようだが、広域負担金について、令和７年度予算案に影響があるのかとの御質問でございます。

最終処分場の建設工事費につきましては、令和４年３月の基本設計策定時の約65億円から、建設資材の高騰などの影響により令和５年３月の実施設計策定時に修正され、約80億円に増額となっております。しかしながら、令和７年度の市町村負担金は、修正後の額で構成市町村と協議し、同意のうえ、事業を実施していることから、現在のところ影響はないと伺っております。なお、令和７年度予算案の最終処分場建設に係る広域負担金につきましては、当初の要求額どおりで計上しております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　再質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　それでは、まず初めに、災害対応、防災についての中で、避難所、非常用電源について再質問いたします。今年度設置が完了した小学校４校は東郷小、豊田小、萩原小、東部小であります。設置会社はＴＮクロスという会社で、千葉市も同じ会社とのことであります。答弁の中でＰＰＡ方式が出てきたので、環境保全課に伺います。災害が起こっていない平常時において、再生可能エネルギー活用内容について、具体的に教えてください。

○議長（金坂道人君）　当局の答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　日中は、太陽光発電設備により発電した電力を自家消費するとともに蓄電池に充電し、夜間は、蓄電池にためた電力を使用するものとなっております。なお、発電量については、各施設で通常使用する電力の約２割から４割を賄える見込みとなっております。以上です。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　それでは、来年度、市民体育館につけるところに対しても教えてください。

○議長（金坂道人君）　経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　市民体育館につきましても、他の施設と同様に、太陽光発電設備により発電した電力を自家消費するとともに、蓄電池に充電するものとなっております。なお、発電量については、通常使用する電力の約３割を賄える見込みとなっております。以上です。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　ＰＰＡの活用状況に関して、通常使用する電力の２割から４割を賄えるということですので、本市としても設置を増やすことが望ましいと思うが、現在設置している公共施設の屋上や屋根に太陽光発電の機材を設置しておりますが、駐車場のような平たんな場所にもカーポートのような機材の設置もできるようですので、今後も調査研究をお願いいたします。今回の質問のメインはＰＰＡではないので、この辺で次に行きます。

小学校４校に設置された太陽光発電により、非常用電源として電力を常時蓄電されているとのことだが、実際に非常用電源として、どの程度、能力的には対応できるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　停電時において、既存の電気設備へは通電されず、太陽光発電設備や蓄電池から電力供給される非常用コンセントのみ使用することができます。各施設に設置した蓄電池の容量は12.7キロワットアワーであり、避難所で使用が想定される投光器や携

帯電話への充電等に必要な電力については、日中は太陽光発電設備、夜間は蓄電池により、24時間供給することが可能と見込んでおります。さらに、避難所の防災備品である可搬型蓄電機に太陽光発電設備から充電することにより、非常用電源のさらなる強化を図ることができると考えております。以上です。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　それでは、今後、設置予定の市民体育館についても、蓄電池の対応能力を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　市民体育館につきましても、小学校４校と同様の対応能力を見込んでおります。以上です。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　既存の電気施設へ通電されないということは、全く別電源ということですから、停電の際に、市民体育館柔道場のエアコンを発動させるには、発電機を用いて稼働させるとのことでありました。市民体育館柔道場のエアコンは電源自立型ガス式といって、電源の電力があれば、要は始めにかける電力があれば、あとはガスの燃料により空調が動き、稼働中は電気電力というんですか、が要らずで使えるすばらしい空調と聞いております。指定避難所としては、停電時、エアコンが使える唯一の場所で、そこで伺います。電源自立式ガスエアコンと通常ガス式エアコンとの機材の金額の違いを教えてください。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　機材金額の違いにつきましては、メーカーや型式によっても異なりますが、通常ガス式エアコンと比較して概ね約1.3倍程度、電源自立型ガス式エアコンのほうが高額となっております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　ガス式電力と一般電力式と比較した場合には、コストはガス式電力のほうが良いのか、一般電力式が良いのか教えてください。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　ランニングコストにつきましては、市民体育館にエアコン設置を検討する際に試算しましたところ、ガスにつきましては年間約660万円に対し、電気については約1200万円でございました。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　ガスと電気とではコストが約２倍近く違うということで、家庭では、ガスのやる、あまりつけないので勉強になりました。

今、電気料も上がっていますし、今の当局の答弁を整理しますと、電源自立式ガスエアコンと普通のガスエアコンの機材の違いは、これ、ガス、ガス同士ですが、電源自立式のほうが機材は高く、ガス式と電気式エアコンを比べるとコストが倍近く違うということで、分かりました。

そこで、市民体育館アリーナも含め、取り付けてあるエアコンの比較に入りますが、エアコン機材の大きさ、大小もありますけれども、柔道場の電源自立式も入ってしまいますが、設計当初、全12基予定に対して、まずはこの機材代、設置代込みで、ガス式が5364万円、電気式が3685万円、電源自立式ガスは普通のガス式より先ほどおっしゃったように1.3倍高いので、6973万円。そこから一番安い電気式3685万円を引きますと、差額が3288万円となりますが、年間コストの差額が先ほど言っていた660万円と1200万円ということで、540万円プラスなので、大体５、６年たてばペイできる計算になります。ガス、ガス同士はたったの1.3倍の違いであり、金額でいうと約1600万円の違いにより、何が変わるかといいますと、災害時にはアリーナも含め全室エアコンが使える避難所になれたということです。先々のことを考えると、約1600万円上乗せし、起債してでも電源自立式ガスにすべきではなかったのか。12キロと1600万円の違いですが、台当たりにすると、均等割りすると100万円ちょいの差額です。もっと小さなエアコンだったらもっと差額も低いはずです。最近、東部台文化会館の体育館についたエアコンも同様でした。これが借金を減らすための緊縮財政の落とし穴なんです。当局を責めているわけではなく、当時の決定者に対しても言えることであります。

もし、風雨災害や地震災害が起こり、ライフラインが絶たれた場合が夏場だったと想定します。避難所にて、夜だけでもエアコンが使えることが望ましいと思いますので、今後は、指定避難所体育館等に空調を設置することがありましたら、どうせつけるなら電源自立型エアコンを導入してほしいです。ガスのまち茂原ですから、地下資源のＰＲにもなりますし、何といっても停電時の避難所も快適になり、燃料コストも良いということで、要望として収めさせてください。

次の質問に移ります。災害協定企業についてですが、本市に私も何社か災害協定事業者を紹介し、協定を結んでいただいたことを覚えております。60団体は、市公式ホームページに掲載されており、私も把握しておりますが、細かな内容までは把握できておらず、協定事業者側も、実際にどの事業者が災害にどのような協力をしていただけるのかは正直把握し切れていないと

思うが、その点については、市が協定事業者間の連絡先を把握していれば、有事の際でも問題ないという認識か、見解を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　災害協定の連絡体制につきましては、市と協定事業者間で年度当初に連絡体制の確認を行っておりますので、有事の際は問題ないと考えております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　これも小規模災害であれば、当局がおっしゃるとおり問題ないかと思いますが、大規模災害時には、協定事業者も当局もばたつき混乱するのではないかと。そうした場合に、自主的に行動していただけるようなシミュレーション、打合せができるのが理想ではあります。千葉県では、ライフライン対策協議会を設置しており、協定企業間を定期的に集め、情報共有や災害時に連携を図るための意見交換をしているそうです。茂原市は特に災害が多いので、市独自での協定事業者間との交流、連携を図ることが必要だと考えるが、市の見解を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　議員おっしゃるとおり、協定締結企業間の連携につきましても、有事の際には有効と考えますので、関連企業などと協議してまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。向後研二議員。

○11番（向後研二君）　ありがとうございます。

ちょっと補足になりますけれども、石油協会会長の安藤石油さんが茂原にいらっしゃいますが、千葉県ライフライン対策連絡協議会に属しており、大変良い取り組みだとおっしゃっておりました。安藤石油さんは、今、本社の前のスタンドの営業は閉めたものの、そのスタンドには常に燃料を備蓄しているそうで、何のためにと聞きましたら、茂原市に災害があったとき、物資を運んでいく、供給する車や現場に駆けつける作業者に対し、燃料供給がいつでもできるようにストックしているとおっしゃっておりました。市役所をはじめ、災害協定事業者に対し、石油事業者として協力できることを望んでおり、他の協定事業者との交流や連携性の大切さを語っておりましたので、よろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。ペット避難についてですが、この半年で大分同行避難所が増えました。これは当局の皆さんの成果に感謝いたします。

では、現在の茂原市でのペット登録数を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　市で把握しているペットの数は、登録制度のある犬のみであり、令和７年１月末現在で5249頭であります。以上です。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　ペット同行避難所20か所全てで、ゲージに収まるペットに限定すると、同行可能なペット数を教えてください。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　ペットの大きさや種類により異なりますが、一般的な中型犬用クレートを用いた場合、１避難所当たり40頭程度、全体では800頭程度になると見込んでおります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　5249頭のペット登録数があり、同行避難できるペット数は全体で800頭ということでした。そこで、水害は予測できますが、地震は予想できない。避難行動では、身の安全を優先するという場面でペットを連れていくほど余裕はないと思います。その後、指定避難所へ移るわけでありますが、長引くような避難生活を考えてみると、ペット同行避難所では、人間も動物もストレスが溜まると思います。そこで、以前にも議会で取り上げられた茂原市、本市における同伴避難、同室避難での避難所の検討は進んでいるのか、検討しているなら、問題課題は何か伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　ペットと共に避難できる環境づくりは重要であると認識しておりますが、避難所には、動物が苦手な方やアレルギーを持った方もいらっしゃるため、ほかの避難者と分けた空間を確保する必要があることから、慎重に検討を進めておるところでございます。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　昨年11月に総務委員会が視察に伺った愛知県犬山市は、人口７万1521人、ペット数は約4500頭ということで、過去の災害事例も、台風により浸水災害や土砂災害と、茂原市のように頻繁に起こっており、本市として、環境が似ております。犬山市は、33か所の指定避難所のうち、３か所をペット同室避難所として開設されたとのこと。広い避難所と部屋数が多いところを活用し、現在35組の受入れが可能と、そんなに多く準備しているわけではないですけれども、2015年の災害時に１人、ペットと一緒にお亡くなりになられた方がおりまし

て、ペット事情、事態を重く受け止めてのことで、事業化したのだと思います。茂原市も5249頭のペットがおりますので、明日は我が市と思い、引き続きよろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。災害時の情報発信についてですが、以前、ＳＮＳの私の質問のときには、フェイスブックだけの活用だったことを覚えています。それに比べたら相当数増え、さらには２月からインスタグラムも始められたとのことで、当局への評価をしたいと思います。そこで伺います。現時点での各ＳＮＳツールの登録者数を教えてください。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　登録者数につきましては、令和７年１月末現在ですが、茂原安全安心メールが5324人、ＬＩＮＥが3957人、旧ツイッターであるＸが1692人、フェイスブックが2073人となっております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　年々少しずつ登録者数は増えていますが、登録者数を増やすために工夫をされているのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　登録者数を増やすため、広報もばらや市公式ウェブサイトへの掲載、各種イベントでのチラシ配布などを行い、周知に努めるとともに、登録のお願いをしております。また、もばら安全・安心メールにつきましては、ハザードマップにも掲載し、各ＳＮＳにつきましては、作成したポスターを公共施設等へ掲示しているほか、ＬＩＮＥにつきましては、庁舎２階にあるコミュニティビジョンを活用し、登録のお願いをしております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　スマートフォンでタッチをするだけで簡単にＳＮＳ登録ができるＮＦＣカードというものがあります。ここにあるんですけれども、こういうやつを携帯電話、スマホにタッチすると、もうすぐできるようなやつがあります。これ、１枚５、６千円で作れます。茂原市に移住されてきたときの手続の際に、ワンタッチで、３秒でできます。またこれを言うと、面倒くさい作業が増えて嫌がられるところですが、情報発信するためのシステム化が最重要課題となります。やっぱり情報を流すためには、その情報を見てもらえる方が必要ということであります。公式ＬＩＮＥは、ふだんから様々な市の情報が流れており、助かっております。災害時に防災無線が聞こえなくても事態を把握できるように、ＳＮＳで情報を流せるようにしておりますが、登録者の方にしか届かない。ですので、登録者数を増やすことが必要なのです。

また、登録者数の目標を立てることも大事であります。まずは２万人。このカードを使えば、手間要らずで簡単にできます。言っておきますけれども、このカードの、私、回し者でも何でもないんですが、すばらしいカードということをちょっと説明したかったんです。どうか登録者数を増やしていくために、いかがでしょうか。市の見解を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　御提案いただきましたＮＦＣカードは、タッチするだけで登録ができるということは便利であると考えますので、他自治体の導入事例なども含めて調査研究してまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　他の自治体導入事例というのは本当に全く気にすることはないんです。やっぱり茂原市が事例をつくっていけばいいんです。今、市がやっているやり方では登録者数があまり増えないので、この５年間、数100人しか増えていない。１枚５、６千円で、このカードは、例えば、ほのおか館に１枚とか、関係団体の社会福祉協議会に１枚とか、商工会議所に１枚とか、そういう周りもちょっと巻き込んで、協力していただいて、とにもかくにも登録者数を増やすべきと思うが、ここでもう一度聞きますが、この点について、市長、どうですか。お願いします。

○議長（金坂道人君）　市長　市原　淳君。

○市長（市原　淳君）　このＮＦＣカードを、実は私、使用したことがありまして、非常に有用なカードになっています。御指摘のとおり、２万人等の目標値を掲げて、ぜひ茂原市が先進事例になるように取り組んでいければと思っております。以上です。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　市長、ありがとうございました。通告にない質問で答えていただき、しかも前向きな御答弁ありがとうございます。

次の質問に移ります。部活動地域移行についてですが、令和６年度に柔道場が地域クラブの活動を開始したとのことですが、半年ほどたちました。先行して実施している柔道の現状と、地域クラブ活動に際して、指導体制や運営などに問題はないか。あるならどのような問題があるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　柔道の活動状況につきましては、従来からある地域クラブが２団体、新規に保護者が設立した地域クラブが１団体の計３団体により活動しております。先行

して実施している柔道の問題といたしましては、集金業務などの運営事務が役員となっている保護者に負担をかけていること、地域クラブへの加入が任意のため、平日と休日で参加する生徒が異なり、指導の継続性が保てないことなどであります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　それでは、地域移行を行うにあたり、今後の計画はどのようになっているのか伺います。

○議長（金坂道人君）　教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　柔道、バレーボール、バスケットボールを除く残りの部活動につきましては、受皿となる地域クラブの募集に着手し、令和９年度には、全部活動での実施を目指してまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　部活動地域移行に対して、中学生はどう捉えているのか伺います。

○議長（金坂道人君）　教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　本年度、中学生に実施した意向調査において、ほぼ半数の生徒は地域クラブに参加したいと考えている一方で、週末は休みたいと考える生徒や別の活動をしたいと考えている生徒もいると捉えております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　令和９年度以降、中学生の希望に対して、地域クラブ受入れ枠が不足した場合、どうなるのか。要は地域移行の受入れ体制が整わない部活があった場合、間に合わなかった場合、どうなるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　令和９年度から、休日の部活動は全て地域クラブに移行することから、地域クラブの受入れ枠がない場合は、大会参加など、特別な事情を除き、休日の活動は行わないことになります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　その答弁だと、令和９年度までに地域移行が完成していなければ、土日休日のスポーツは休みで、活動はできないということで理解しました。

　では、部活動地域移行を推進していく上での今後の課題について、対応策について伺います。

○議長（金坂道人君）　教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　地域移行における本市の課題といたしましては、受け入れる地

域クラブが不足していることであります。対応策としましては、市スポーツ協会などの関係機関と連携を強化し協力をお願いしていくこと、人材バンクの周知を図ること、学校顧問と地域クラブの合同会議を継続して開催し、情報共有を図ることなどに取り組んでまいりますが、何より地域の方々の協力が重要と考えております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　私、現在、千葉県野球協会の茂原市部長を仰せつかっておりまして、この間、１月31日に初めて各中学校野球部顧問の先生方と合同会議をしましたが、話がまとまらないというか、構想がぼやけているというか、次の会議の間隔も大分開き過ぎているようなことを思いました。そこで伺います。今後の部活動地域移行をどのように考えているのか、市としての方向性を伺います。

○議長（金坂道人君）　教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　部活動地域移行は休日も学校が部活動を行うことは当たり前であるという考え方を方向転換するものでございます。先行して行っている自治体では、外部委託や部活動指導員を活用しておりますが、本市では、開始段階から、中学生を受け入れる各地域クラブが独立した運営状態となることを目指して取り組んでおります。地域の方々の理解と協力を得ながら、より多くの指導者とクラブの掘り起こしを図り、生徒が継続してスポーツや文化芸術活動に取り組めるよう努めてまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　土日は部活動ではなく、スポーツなんですよということを理解しました。

しかし、この問題は非常に難しいです。スポーツ振興を掲げている本市にとっては、土日休日もスポーツを行いたいと思っている生徒が半分いて、その一方で、休日は休みたいと言われている生徒がおられるようですが、スポーツを行いたいと思っている生徒に対し居場所をつくらないと、残念な結果となります。かといって、無理に指導員やクラブ運営をしてしまうと、長くは続かないという本市の気持ちも分かります。理由は、配付してある資料を見ていただければ分かるように、補助金制度もありまして、国が３分の１、県が３分の１、茂原市が３分の１。令和７年度は締め切りました。うちは補助金を活用しても、事業を継続している際に途中でこの補助金を打ち切られると、100％市の財源に回ってくる。負担も大きくなるので、そこは慎重にいきたいと思います。そして、右下のところには、体制例も様々あります。部活動地域移行につきましては、他市の動向をあまり気にせず、各自治体個々の特性を把握し、茂原市

の中学生をはじめ、保護者、指導員や施設の環境も踏まえ、どうするのか、大事な場面かと思います。また、その一方で、地域移行を抜本的に捉えている地域もあるそうです。部活動ではないので、町全体で参加できるような運動としての捉え方で、気軽に誰でも参加したいスポーツに加盟するような取り組みの考えもあります。

今から話すことは、国に対しての意見ともなりますが、教育の働き方改革に対して理解はできますが、部活動地域移行については、地域格差により、財源が豊かな自治体はすぐ地域移行できるから良いですが、施設設備も整っていない、財源も厳しい自治体が地域移行に成功しなかった場合、その子どもたちが10年後、どのように育っているのか。先の結果は誰にも分からないと思いますが、国は先の結果をどう捉えているのか。地元の国会議員の先生に伝えてみたいと思います。

次の質問に移ります。令和７年度待機児童についてですが、０歳から２歳は受入れが困難と聞いております。実際に保育所は足りているのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。福祉部長　中村一之君。

○福祉部長（中村一之君）　０歳児から２歳児の受入れについては、国の定める配置基準に基づき、より多くの保育士の配置が必要となります。近年の傾向では、低年齢児の入所希望者や配慮が必要な児童が増えていることから、保育士の人数に余裕があるとは言えない状況であります。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　現在は、保育士の募集方法はどのように行っているのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　正規職員の保育士は、一般事務職などと同様に採用試験を実施しております。毎年７月頃、募集要項を決定、公表しており、周知方法といたしましては、広報もばら、市公式ウェブサイト、ＳＮＳに情報掲載し募集案内をしております。会計年度任用職員につきましては、基本的には毎年１月頃、市公式ウェブサイトやＳＮＳを活用し募集案内をしておりますが、必要に応じて追加募集をウェブサイトやハローワークで行っております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　余談ともなりますが、新潟が日本で初めて保育所ができた発祥の地ということで、力を入れているようですので、調べて参考にできるところがあれば取り入れてください。自治体によるゼロ予算で実現する保育士の確保の新戦略というのもあります。本市で

合う政策内容かは、後で担当課と打ち合せます。保育士イコール働く女性。女性や子どもが活躍する場のない地域の発展はないと言っても過言ではありません。また、保育と義務教育は、日本の20年後をつくる魅力ある仕事であることをお伝えしまして、次の質問に移ります。

学童クラブの待機児童についてですが、ここ数年間、変わらず集中している学童クラブは待機児童となっておりますが、学区の児童数統計上だけでは判断できないと思うが、集中している学童クラブの待機児童はあと数年続きそうにも感じているのですが、問題点は指導員の確保だけでしょうか。

○議長（金坂道人君）　福祉部長　中村一之君。

○福祉部長（中村一之君）　待機児童を解消するためには、指導員や保育場所の確保が挙げられます。引き続き、児童数の推移を見極めながら、待機児童の解消に向け、取り組んでまいります。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　もし、保育士の雇用に成功し、人員に余裕があれば、学童保育との連携も取れるのかと。例えば、午前中は保育所、午後は学童保育と、業態の壁を取り払い、臨機応変な働き方改革の実現で、一時的な待機児童解消と、働く方の負担の軽減を図れるものと考えます。これ、意見です。

次の質問に移ります。令和７年度予算編成についてですが、令和６年度予算の財産売払収入8513万円余は、ゆたか地区の区画整理事業での収入が主なものと伺っております。令和７年度予算案では、3000万円の財産売払収入見込みということですが、主なものを教えてください。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。総務部長　渡邉正統君。

○総務部長（渡邉正統君）　主なものといたしましては、旧新治保育所や茂原通町の交差点改良の旧事業用地となります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　次に、最終処分場について、当初の要求額どおりで令和７年度予算案には影響がないということでしたが、私の記憶では、最終処分場の予算額が当初48億円台で、物価高騰により約65億円台で、さらには80億円台になりました。これ、全て物価高騰かなと。物価高騰以外での増額の要因はあるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。企画財政部長　平井　仁君。

○企画財政部長（平井　仁君）　当初計画と比較いたしまして、より安心安全な施設を目指し、施設の構造について、埋立て部を被う被覆型にしたことや軟弱地盤による地盤改良が必要にな

ったことなどが増額の主な要因と伺っております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　向後研二議員。

○11番（向後研二君）　今定例会の３月、４、５と予算特別委員会が開かれますので、予算に関しては、この辺で終わりたいと思います。

最後に、本年度、再来年度に向けては、新たに企業誘致を可能にするために、産業用地の整備や道の駅の基本構想、そして英検の検定料公費負担等も含めて進めていただき、財源の確保という点では、図書館の移転で年間賃料が約1000万円程度減額となる、旧ひめはるの里跡地利用、旧二宮小学校再生事業、旧国府関住宅に仮称スパランドホテル、バイパスにあるセントラルモール再建設、旧そごう跡地再開発、旧イオン跡地協議等、歳入における収入に期待が膨らんでおり、私もやりがいを感じております。市長も私も財源の確保が必要不可欠と、考えは同じでありますので、ジャパンディスプレイが来年の３月までのようなお話もありますが、起こってしまうことを嘆いていても仕方ないので、乗り越えていく策を引き寄せていくことで、茂原の明るい未来を切り開いていくことでしょう。あらゆる面で底上げをし、１人でも多くの市民要望、サービスに応えられるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

以上で私の一般質問を終わりといたします。ありがとうございました。

○議長（金坂道人君）　以上で向後研二議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前11時01分　休憩

―――――――――― ☆ ―――――――――― ☆ ――――――――――

午前11時10分　開議

○議長（金坂道人君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、河野英美議員の一般質問を許します。河野英美議員。

（５番　河野英美君登壇）

○５番（河野英美君）　皆様、こんにちは。志友会の河野英美です。

任期中、最後の一般質問となります。そして、３月定例会最後の質問者となります。この４年は本当にあっという間に過ぎていきました。いろいろと経験をし、議会や行政の皆様から、たくさんのことを学びました。本日もたくさんの皆様が傍聴にいらしてくださっておりますが、私がこの４年間、活動できたのは、支えてくださる皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

昨年６月には、縦割りをなくして横の連携をと、水害対策のプロジェクトチーム設置を強く

要望し、12月より実現いたしました。９月には、行政組織の見直しについて提言し、４月から総合企画部、財務部の新設がされることとなりました。市原市長のスピード感ある行動力に期待をするところであります。市民の皆様の生活の質の向上のため、形だけのチーム、名前だけの見直しとならないよう、大変なことも多いかとは思いますけれども、当局の皆様にはしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

それでは、質問をいたします。来年度４月からは、新市長の予算編成により、市政が動いてまいります。ここで、これからの本市の施策について、これまでの私の質問の進捗状況を含め、伺ってまいります。

最初に、新規就農について。就農者の高齢化や後継者不足などの理由により、離農者は増加し、地域の担い手は減少しております。海外から安い農産物が輸入されたり、気象変動の影響、また、利益が少ないなどが原因かもしれません。茂原市の総合計画でも、各関係機関と連携するとともに、新技術の応用による農作業の省力化や生産性向上などによって農業経営の改善を図ることで、担い手の育成に努める必要があると書かれております。

農林業センサスは、５年ごとに我が国の農林業を営む方や農村、山村の実態を明らかにする調査です。2020年の農林業センサスによると、茂原市の総農家数は1350戸で、年間54.4戸の農家が離農しているということです。また、農業従事者の平均年齢は71.1歳、県の全体は66.9歳です。65歳以上の割合は約81.7％となっております。また、令和５年度の茂原市の荒廃農地の面積は247ヘクタールで、東京ドーム約53個分になります。耕作放棄地が増え、荒廃した農地は、今、市内でもイノシシが多く目撃されておりますけれども、野生動物や害虫を呼び込んだり、ごみが不法投棄されたりして、周囲の農地に影響を及ぼすこともあります。第１次産業である農家の担い手が減ることは、食料自給率の低下、耕作放棄地の増加による景観の悪化、農地の多面的機能の喪失といった問題を生むと考えられます。そこで質問ですが、茂原市では、担い手不足を解消するための新規就農者の支援や体制はどのようなものがあるか伺います。

続いて、本納地区について伺います。初めに、水害に対する取り組みについて。これまでも本納地区の水害について質問をし、茂原白子バイパスの導水管の設置や内水ハザードマップの作成等を要望してまいりました。特に一昨年の９月８日の台風13号による被害は大きく、対策は急務です。市長の就任時の新聞インタビューでは、新治、本納地域では、房総丘陵の山間部から流れてくる雨水が溜まりやすい場所であるため、貯水施設の整備などを含めた内水対策が必要と考えているとありました。そこで、準用河川乗川の河川改修事業の進捗状況について伺います。

次に、本納地区の地区計画について。本納駅東地区は、2003年12月に土地区画整理事業施行区域として都市計画が決定されました。都市基盤整備に向けた準備が進められていましたが、社会情勢が変化し、事業化が困難な状況となったことから、地元有志による研究会が立ち上がり、2017年３月に地区計画によるまちづくりに転換をいたしました。地区計画は都市計画の１つで、地区に住む人が主役の生活に密着した計画です。比較的小さな地区を単位とした都市計画と言えます。それに合わせて用途地域を変更し、地元協議会の設置に合わせて市が事業を支援していました。地区計画の区域は、本納駅東の約24.9ヘクタール。市が道路、公園など、公共施設の整備を行い、商業業務機能等の立地の誘導により、市の玄関口にふさわしい地区として整備をする方針です。公共施設では、都市計画道路や本納駅東口駅前広場を街路事業により整備、区画道路、歩行者専用道路、公園などの整備を予定しております。また、2023年に策定された茂原市都市計画マスタープランでは、本納エリアを含む新治、本納、豊岡地区を圏央道茂原北インターチェンジや本納駅を有する交通利便性を生かし、市北部の玄関口とし、本納エリアを市の副次拠点として都市機能の充実を図るとしています。しかしながら、昨年の質問に対する御答弁では、2004年度から、本納地区の皆様が納めた都市計画税は、概算で３億円にも上っているということです。それにもかかわらず、都市計画決定されてから20年以上が経過した現在でも、全くと言っていいほど整備は進んでおりません。そこで、本納地区の地区計画の現在の状況について伺います。

続いて、学校再編について伺います。昨年６月の質問に対する市長、教育長の御答弁では、計画上では、令和８年３月31日までに豊岡の統合時期を定めるとしておりますが、ここで統合を決めるのは時期早尚であり、一旦立ち止まって再考したい。令和８年４月の統合はないということでございました。本納小、豊岡小の保護者さんたちは、まだそれを知らずに、統合をすると思っている方が多いと伺っております。そこで、本納小学校と豊岡小学校との学校再編の状況について伺います。次に、令和８年４月に統合が決定している南中学校と早野中学校との学校再編の現在の状況について伺います。

以上が最初の質問となります。御答弁よろしくお願いをいたします。

○議長（金坂道人君）　ただいまの河野英美議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長　市原　淳君。

（市長　市原　淳君登壇）

○市長（市原　淳君）　河野英美議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

私からはまず、これからの施策についての中で、現在行われている新規就農支援や体制につ

いての御質問でございますが、市で定めた基準を満たした認定新規就農者を対象に、就農開始に必要な資金援助を行っております。また、就農に必要な知識の習得を支援するため、専門知識を持つ長生農業事務所やＪＡ長生と連携したサポートチームを組織し、定期的な相談対応と技術指導を行っているところです。

次に、準用河川乗川の河川改修事業の進捗状況についての御質問でございますが、用地取得につきましては、必要面積２万7000平方メートルのうち、約１万7000平方メートルの取得が完了し、用地取得率は約63％となっております。工事については、赤目川の改修が乗川まで到達していないため、治水効果が見込めないことから、抜本的な着手には至っていない状況でございます。

私からは以上です。

○議長（金坂道人君）　都市建設部長　白井　高君。

（都市建設部長　白井　高君登壇）

○都市建設部長（白井　高君）　都市建設部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

これからの施策についての御質問の中で、本納地区の地区計画の現在の状況はとの御質問でございますが、地区計画の区域内において、建築物の建築、工作物の建設、土地の区画形質の変更等を行う場合は届出が必要となります。現在の状況につきましては、地区計画決定後の平成29年度以降の届出件数は８件で、令和６年度につきましては、新たな届出はございません。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　教育長　富田浩明君。

（教育長　富田浩明君登壇）

○教育長（富田浩明君）　教育委員会所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

本納小学校と豊岡小学校の学校再編の状況についての御質問ですが、本納小学校と豊岡小学校の学校再編につきましては、茂原市学校再編第２次実施計画において児童数の推移を注視し、保護者や地域住民等との協議を重ね、理解を得ながら統合時期を定めるとしております。豊岡小学校は、住民基本台帳を基にした推計では、令和12年度には各学年が10人程度の規模となることが見込まれております。このような状況から、教育委員会では、実施計画の策定以降、毎年、豊岡小学校ＰＴＡ及び豊岡地区自治会長連合会の代表者と学校再編に関する話し合いを開催してまいりました。その話し合いの中では、小中一貫教育については一定の理解が得られるものの、一部では、学校周辺の水害等に対する不安や学習環境に対する心配の声も上がっています。教育委員会としては、未来を切り拓く子どもたちを育成するためには、多様な人々と協

働した学びが大切であると考えており、引き続き適切な情報提供と丁寧な説明に努めてまいります。

次に、南中学校と早野中学校の学校再編につきましては、令和８年４月１日の統合に向け、令和６年８月からＰＴＡ、地域住民、教職員の代表から成る統合準備委員会を設置し、協議、検討を進めているところでございます。統合準備委員会では、検討の結果、統合校の名称は茂原市立南中学校とし、今議会において条例改正の議案を提出しております。また、校歌及び校章については南中学校のものを引き続き使用することと決定しております。統合に向けた整備については、南中学校校舎の一部が土砂災害警戒区域等にかかっていることから、待ち受け擁壁等の設置工事を令和７年度に計画しています。また、通学道路の整備に関連しましては、現在、サトペン前交差点から早野真先交差点に向かう道路及びコスモマンション方面に向かう道路の拡幅等の工事を進めております。校舎については、トイレの大規模改修工事を令和７年度から令和８年度にかけて、学級数の増加に伴うエアコン設置工事を令和７年度に計画しています。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　再質問ありますか。河野英美議員。

○５番（河野英美君）　御答弁ありがとうございました。

それでは、再質問をいたします。新規就農について。認定新規就農者に認定されるには、５年後の目標とその達成のための取り組み内容を記載した就農計画を作成し、申請。審査の後に認定されるとのことです。最初の御答弁で、市が定めた基準とありましたが、認定の基準と国からの資金援助の内容について伺います。

○議長（金坂道人君）　当局の答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　市で定めた基準は、営農開始時の年齢が45歳未満であり、農地を確保し、かつ、市の農業に関する基本構想に基づく年間農業所得や農作業時間を達成できる見込みのある者となっております。国からの資金援助につきましては、経営が不安定な就農直後３年以内の所得安定を図る支援や経営発展のために必要な機械、施設等を導入する費用の補助を行っています。以上です。

○議長（金坂道人君）　さらに質問ありますか。河野英美議員。

○５番（河野英美君）　今の御答弁の年間農業所得というのが270万円以上、そして農作業時間は1800時間から2000時間ということでございます。また、費用の補助というのは年間150万円とのことでございますが、では、新規就農者の獲得に向けてはどのような取り組みを行っているのか、また、その状況について伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　千葉県農業大学校に出向き、本市での就農を促すため、説明会を行っています。しかしながら、今のところ大きな成果には結びついておりません。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　令和５年度の決算書を見ますと、費用の補助に10名、これで1500万円となっております。来年度の予算は1740万円だと思うんですけれども、そうすると、資金援助というのはある程度効果が出ているけれども、新規就農者の獲得に向けては大きな成果はないということで、これは今までは自ら就農したい人が来るのを待っている、受け身の状態であったのではないかと思いますが、新規就農者を増やす何か新たな方法があれば伺います。

○議長（金坂道人君）　経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　移住就農の支援を積極的に推進している長生農業独立支援センターに加入することで、移住就農希望者に対しての研修や資金の支援等、これまで本市が取り組んでいなかった新たな方法で、新規就農者の確保を図ることができると考えております。以上です。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　では、長生農業独立支援センターに加入することで、どのような効果があるのでしょうか。

○議長（金坂道人君）　経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　移住就農の推進により、これまで本市になかった様々な志を持った就農者も見込まれることから、企業参入や雇用就農など、新たな農業形態の確立や農産物の生産が期待できるものと考えております。以上です。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　市長の施政方針の中で、新規事業として、この支援センターへの加入とございましたので、お話を伺いにＪＡ長生へ伺ってきました。センターは県、町村と農協が連携して、移住、就農等の促進を目的に設立されたということでございました。昨年の12月22日には、センターに加入している、これは一宮町、白子町、そして長生村ですけれども、それぞれの農家を見学し、ネギの収穫体験やながいき市場、グリーンウェーブ長生でトマトの選果などの施設を見学して、最後は意見交換を行うという長生農業バスツアーを開催して、これには県内外から15組21名が参加したということでございました。ほかにも地域や、あとは都内のイベントなどにも出展して積極的な募集活動をかけているということでございました。

私も地域の方から就農の御相談をいただくことがあるんですけれども、本質問の御答弁にあった認定新規就農者になるということであるとか、国の支援を受けるというのは、何か条件であるとか手続、こういったものにおいてハードルが高いように感じておりました。しかし、この独立支援センターは、これらの新規就農、営農に関する相談をワンストップで行って、研修で直接農業者さんから指導を受けられるなど、手厚いバックアップをしているということでございます。そして、この長生地域といいますのは、東京に近いということから移住就農者に選ばれやすい。そして、その取り組みが令和元年からの就農者、そして研修生というのは約40名と、かなりの効果を上げているということでございます。

しかしながら、今加入しているのが一宮町、白子町、長生村ということで、水稲に取り組んでいるという人はゼロだそうです。全て野菜や果物であります。稲作の経営というものは、耕地面積の確保や資金などハードルが高いと思っておりますが、センターには稲作経営の希望者もいらっしゃるということであります。これから茂原市が加入するということは、山の手３町の長南、長柄、睦沢の加入も期待できると思います。稲作への道が開けるのではないかと思いました。

他自治体の担い手の対策としては、島根県の美郷町というところで、太陽光発電を使ってCO_2排出量が実質ゼロの農産物を作っているそうです。そして、付加価値を高めてみさと型ゼロカーボン農業モデルという取り組みで、こういった農業に共鳴する若い就農者を呼び込んでいるということでございます。その太陽光で発電した電気で農機具を動かす。そして、発電で余った電力は農家に提供する。そして、農機具も共同で利用してコストを抑えるというふうなモデルとなっているそうです。また、東広島市では、子育て世帯の新規就農者に対して、中学生以下の子ども１人当たり月１万円を給付して、若い世代の定住を後押ししております。県内では、多古町がＩＣＴなどの独自技術を持つ企業と連携して仕組みをつくる多古町デジタル農家エコシステム推進事業というものを2023年度から進めているということです。また、農水省は、農業女子プロジェクトというものを推進しているそうで、職業としての農業を選択する若手女性の増加を図る取り組みをしていると。佐賀県でも、女性農業者の確保や育成に研修などを行って取り組んでいると。これには女性が変える未来の農業推進事業という補助金を活用しているということでございました。そして、最初から本格的に農業をやらずとも、例えば農業体験、家庭菜園から始めて、やりたい人は今度、市民農園、そして、もっとやりたい人は本格的な農業という形で、埼玉県飯能市に農のある暮らしというプロジェクト。これは住宅を建築する場合に住宅ローンの金利が優遇されるという融資制度があるそうです。このように、担い

手不足の解消というのは、それぞれ知恵を絞った取り組みをしておりますけれども、茂原市もセンターの加入によって、新規就農者が増えることを期待しております。

そして、少し話が離れますけれども、これ、やはりネギを作っているところが多いそうです。本納地区もネギの産地で、昭和３年に特産物に数えられた本納ネギを栽培されております。ただ、こちらも担い手不足で生産は減っております。以前に献上ネギといって、皇室に献上するネギ、これは御家族で作っているお宅がありました。今は御夫婦が２人となってしまって、農業をお辞めになって会社勤めをしているんですけれども、また栽培したいという強い思いは持っておられるんですね。ですから、ただ、こういう現実は厳しいということがありますので、もし献上ネギが復活したら、市のブランド力アップになるんじゃないかと思っております。

続いて、本納地区についての再質問をいたします。用地取得が63％ということで、私が令和３年９月に質問したときと全く同じ御答弁でございます。３年半の間、全く進んでいないというわけでございますが、乗川の改修事業は来年度以降、どのような計画で進める予定なのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　令和７年度に策定する第３次３か年実施計画に位置づけ、令和８年度より、残りの用地取得及び建物移転等の補償を計画的に進めてまいりたいと考えております。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　では、改修において、令和３年のこれも質問で、市道１級17号線、これは三浦建設の脇に架かる吾妻崎橋の架け替えから進めるとされておりましたけれども、これの状況について伺います。

○議長（金坂道人君）　都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　令和５年度に橋梁詳細設計が完了しており、今後、橋の架け替えに伴う迂回路の設計を実施してまいります。橋の架け替え工事につきましては、赤目川の改修状況を見極めて整備してまいりたいと考えております。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　この橋梁の詳細設計、令和５年度に完了しているということで、約2900万円をかけております。そして、この迂回路の設計、これは来年度の予算で1050万円。これは本年度の繰越しであります。なぜ、本年度やらなかったのか、やれなかったのか。もし、お答えいただけたらお願いいたします。

○議長（金坂道人君）　都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　迂回路に必要となる用地に関係しまして、用地交渉が長引いたことによりまして、繰越し予算となっております。以上です。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　この場所は近く、一昨年の台風13号のときに、大人の太ももまで浸水している場所なんです。雨がやんだ後に、西側からどんどんどんどん流れてくるんです、この場所には。雨から３日後の朝に、水が引かなくて子どもが学校に行けませんと私に連絡がありました。３日後なんです。３日後にまだ学校に行けないほど、水が引いていないんですね。私も近寄れないんです。陸の孤島になっているんですね。もちろんその西側もひどい水害でした。その台風でおうちに住めなくなった方もいらっしゃいます。

この橋の架け替えの目的として、流域の浸水被害を軽減し、治水安全度の向上を目的とするとありました。市がよくおっしゃる言葉に、優先性や緊急性というものがありますが、この架け替えにそれらがあるとは到底思えません。今の御答弁で、まだ迂回路の用地も確保できていないと。それに1000万円という、そういった設計費を予算で上げるということは、これだけお金がない、お金がない、財政苦しいと言っている中で、私には到底理解のできるものではありません。しかも、橋全体を直すのも、この調子なら何年先になるか分からない、そういう状況です。橋を直して河道を拡幅する前にですよと。それは橋の工事の順番というものもあるのかもしれないですけど。今、橋を直して、被害に遭っている方々の床上浸水が解消できるんでしょうか。当局のおっしゃる優先順位というのは何なんでしょうか。それよりもしっかりとした内水対策をしていただきたいんです。乗川の改修が整備されるまで、どのような内水対策があるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　本納地区の水害対策につきましては、現在、河川への負担を軽減するため、ため池を活用した貯留や雨水貯留槽による各戸貯留等の流出抑制対策に取り組んでいただいております。今後の対策につきましても、茂原市水害のない街づくりプロジェクト・チームにおいて検討し、できることから取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　今できることからということでございますが、昨日、三橋議員も赤目川についての質問をされておりました。河川改修だけでは間に合わないよと三橋議員おっしゃった。そうすると、流すこと、ためることは速やかにやるというような御答弁であったと思い

ます。現状は、これを流すこと、赤目には流れない状況です。しかし、ためることはできると思うんですね。水害対策の先進地を見ますと、学校の校庭貯留を行っている自治体が多いです。それにもいろいろ課題はあると思いますけれども、本納中学校のグラウンドの地下に貯留施設等を設ける考えはないか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　流出抑制対策として有効な手段の１つでありますので、調査・研究してまいりたいと考えております。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　調査研究ということをどう捉えていいか分かりませんけれども、学校施設環境改善交付金等、使える交付金もあるかもしれませんので、ぜひ前向きな御検討をお願いいたします。

そして、ためるということで、ほかにできることとして、令和５年12月議会において、赤目川流域での田んぼダムに取り組んでほしいということを申し上げました。一昨年９月の台風のときには、農地への貯留を検討してほしいという市民の方からの御意見もありました。田んぼダムを活用する考えがないのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。経済環境部長　髙橋啓一君。

○経済環境部長（髙橋啓一君）　２級河川赤目川上流域の吉井地区や準用河川乗川上流域の農家の方々に相談した結果、一部の地区について、田んぼダムに協力を得られるということで、現在設置に向けて協議をしております。以上です。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　協力してくださるということで、ありがとうございます。田んぼダムは、多くの農家さんが一体となって協力してくださらなければできないことです。理解を得ることが課題の１つであります。

市では、協力してくださる農家さんへ、多面的機能支払交付金に10アール当たり400円の上乗せをしているということでございます。新潟県の見附市では、調整管を開発して、１本につき500円の協力金を払っていると。田んぼダムに取り組んでいる自治体の中には、独自の排水桝を開発しているところもあり、協力してくださる皆さんへの負担が少なくなるように工夫をされています。最近では、スマート田んぼダムという実証的な取り組みも目にしております。スマートフォンで遠隔操作が可能な自動給排水栓により、大雨の予想時に事前に一斉落水をすることで、田んぼダムの効果をより高めます。また、通常の水の管理を遠隔で操作したり、水

や水温もスマートフォンで確認できるということで、水の管理の省エネ化を図ることができるということであります。茂原市も田んぼダムを広げるには、農家さんにもう少しメリットがあったほうがいいと考えますので、何か御検討をいただけるとありがたいと思います。

そして、さらに、ためるということでは、平常時を、例えばグラウンドであるとか、多目的な要素を持つ広場として、スポーツや憩いの場として使って、遊水グラウンドのような感じですけれども、調節池を設置して活用できないかを伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　準用河川乗川の河川改修計画では、流下能力の向上を図るため、川幅を広げる計画となっておりますので、調節池を設置する予定はございません。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　先ほども申し上げましたけれども、川の改修ってめどがついていないんですよね、全然。めどがつかないことよりも、今何ができるかというのをもう少し考えていただきたいんですよ。待っている間に、また雨降りますよ。どれだけの市民の皆さんが被害に遭わなくてはならないのでしょうか。お金がかかる、財政が厳しいというのは承知で言っております。しかし、貯水のインフラ整備は必須です。先ほど御答弁にあった、できること、これを探していただいて、取り組んでいただきたいと思います。そして、重ねて、雨水排水能力の向上のために、水路の整備、そして公共下水道の整備も要望いたします。

では、地区計画に対しての質問に移ります。本納駅東側の開発を考えるならば、本納駅を橋上化して東口を造る必要があると思いますが、計画の状況について伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　本納駅の橋上化につきましては、駅利用者の利便性や安全性向上のため、有効な手段であると考えておりますが、当該地区の土地利用が図られていないことから、現時点において具体的な計画はございません。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　それでは、本納駅東口広場を含む本納駅東口線の整備予定について伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　現時点において整備予定はございませんが、周辺の土地利用や本納駅の橋上化に合わせて整備を計画してまいります。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　まずは土地利用でにぎわいを出す、住む人を増やしてからということなのかもしれませんけれども、では、まず、要望の多い地域内の公園の先行整備ができないかを伺います。

○議長（金坂道人君）　都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　区域内の公園につきましては、準用河川乗川の河川改修事業に併せ、事業区域、整備方法などを検討してまいります。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　公園の要望、本当に多いんですね。昨年の小学生議会か何かだったと思いますけれども、質問が出てもおりましたので、区域外でもいいので、公園整備をよろしくお願いしたいと思います。

そして、駅東地区の国道128号線バイパス沿いの土地利用の規制緩和をすることにより、まちの活性化につながると思うのですが、その後の状況を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　国道128号沿いの土地利用の規制緩和につきましては、国道128号の４車線化の具体化に合わせて取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　大網からは４車線化が進んでおりますので、それに続き、茂原市も具体化してくるのではないかなと考えております。ロードサイドの発展のためにも、規制緩和、よろしくお願いをいたします。

では、学校再編についての再質問をいたします。豊岡小について、今後、保護者や地域住民に対する説明会を行う考えがあるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　令和４年度から毎年話し合いを実施しているところであり、今年度につきましても、豊岡地区のＰＴＡや自治会長を対象に３回実施しております。今後も話し合いの対象を広げて継続的に実施してまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　現在の話し合い、これは日時の都合もあるかと思いますけれども、毎回、あまり、数人の参加者と伺っております。今後は話し合いの対象を広げるということでございますが、地域の皆さんの声を広く聞くということは本当に大切なことだと思います。就学前のお子さんの保護者さんも含めて、住民説明会の実施をよろしくお願いいたします。

では、統合した場合、現在の本納小学校の教室数に児童が収まるのはいつ頃になるか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　普通教室として使用できる部屋は増築校舎には８部屋、既存校舎には16部屋あり、議員お示しの増築校舎に児童が収まるのは、特別支援学級が２クラスの場合、各学年が単学級となったときであります。しかしながら、本納小学校と本納中学校は施設一体型の小中一貫型校として、教室を含めた各施設、設備を共用することにより、小学生と中学生が学び合える学習環境を整えたいと考えております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　本納小の校舎が中学校の校舎の増築ということを、今この御答弁で初めて知りました。旧校舎裏の崖の危険から逃れるために、また、新治小と本納小の２つの学校の統合のために新校舎をあの場所に新築したと私は認識しております。多くの方がこの認識であると思っております。しかし、今の御答弁ですと、市は本納小と本納中ではなく、増築と既存の校舎という認識で、あくまで１つの建物なので、増築校舎に子どもたちが全て収まる必要性がないということでございます。

新治小が統合した際に、既存校舎に移ることになった保護者から不満の声が出ておりました。ちょうど２か月前の豊岡小の話し合い、これもホームページに載っておりますが、施設一体の小中一貫という部分が機能しているのか、子どもたちにアンケートを取って聞いてほしいと。統合は子どもの減少を考えると仕方ない部分もあるが、統合の教室数や大雨のときのことが心配であり、統合場所には納得していない。また、新市長の人口増加の政策に期待しており、豊岡地区での住宅開発などによる人口増加の希望が持てればなというような声が出ております。一貫教育というならば、いろいろな場面で小中学生が交流できるスペースをつくる、また、不登校の生徒児童が増えている中、居場所となるスペースをつくるなど、時間をかけて学習空間のあり方を考えることが必要だと思います。

国内の事例では、統合する子どもたちが未来の教室として理想の教室や施設を話し合い、それに大人たちが真剣に向き合い建てた学校もあります。国立教育政策研究所が、全国の公立小中一貫教育校のうち286件の施設に関するアンケート調査を行いました。施設面の総合的な満足度、これは一体型が最も高いです。しかし、一体型であっても、準備段階で、建築設計の専門家が関わっていない学校や施設的な工夫の少ない学校では、施設面の総合的な満足度は低いという結果が出ています。施設の工夫の例としては、教室と連続性を持つオープンスペース、

教科の学習や交流スペース、ランチルーム、そして地域住民の活動拠点となる施設、こういったものがあります。全国の事例を見ても、増築、改築、新築、いずれにしてもすばらしい小中学生の交流スペースが整備されております。本納中学校にはこのような配慮はされておりません。本納小、増築校舎の建設は、急いで、急いで、押し切られたという印象があります。

昨年９月に茂原市少年の主張大会が開催され、市内の中学３年生たちが日頃の考えや希望を訴えました。その中で、本納小中の統合と一貫教育について述べた生徒さんがいました。受験がある中、小学生と交流の機会を持つことの難しさ、世代間のギャップ、周りには交流を積極的に望まないという意見がある。また、共有している施設の使い方の難しさ。少人数で学ぶことのよさを感じている自分がいるけれども、統廃合や一貫教育も受け入れようと、課題や解決策、理想を考えている自分もいる。最後は、大人目線だけでなく、僕ら子どもたちの意見が反映されることを願っていますということで発表が締めくくられました。

2023年にこども家庭庁が発足し、こどもまんなか社会、子どもの声を聞くということを掲げております。これから校舎をどのように活用していくか、お考えは多々あると思いますので、ぜひ子どもたちの意見も聞きながら、居心地のいい空間をつくっていただきたいと思います。

続いて、南中と早野中の再編に移ります。擁壁等の設置工事、トイレの大規模改修、エアコンの設置工事、それぞれの来年度の事業費について伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　令和７年度当初予算には、待ち受け擁壁等の設置工事に6037万4000円、トイレの大規模改修工事に7335万9000円、空調機の設置工事に3735万6000円を計上しております。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　トータルで１億7000万円余ということであります。

それでは、市道１級８号線の通学路整備の状況と完了予定について伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。都市建設部長　白井　高君。

○都市建設部長（白井　高君）　整備の状況につきましては、昨年度より、道路拡幅部分の擁壁工事に着手し、現在、歩道整備を含む道路整備工事を実施しております。完了時期につきましては、令和７年９月の完成を目指しておりますが、一部、工事に着手できない箇所がございますので、引き続き用地取得等に努めてまいります。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　私は早野と南中の住民説明会にも２度ほど参加しました。どちらのと

きも、通学道路の安全性が担保されない限り統合されては困るという意見が出ておりました。令和８年４月までに完了しないということですが、統合に影響が生じるのか伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　現在、統合準備委員会では、両校の生徒が共に安心して新しい学校生活に移行できるよう、教育課程や生活の決まりなど、最後のすり合わせが進められております。また、両校におきましても、統合を機に制服やジャージを新たにする取り組みや生徒同士の交流などを進めており、統合に向けた機運が高まってきております。教育委員会といたしましては、令和８年４月１日の統合に向け、関係部局と連携しながら準備を進めてまいります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　このまま統合へということでございます。

南中、早野中の各中学校の保護者さんに何名かお話を伺ったところ、工事が間に合わないということを知らない方のほうが多かったです。地域の皆様にしっかりと周知をして、丁寧な話し合いをしていただきたいと思っております。そしてまた、予定どおりに統合するのであれば、子どもたちの安全をしっかりと守る対策をお願いしたいと思います。

では、それでは最後に、次期再編計画を作成するにあたり、学校再編審議会において、現在までに行われた具体的な審議内容を伺います。

○議長（金坂道人君）　答弁を求めます。教育部長　佐久間尉介君。

○教育部長（佐久間尉介君）　学校再編審議会は、これまでに３回の審議会を開催しており、その中で、現行の基本計画における学校規模ごとの基本的な方向性の見直しについて審議が行われました。具体的には、これまでは学級数を学校再編の指標としておりましたが、１学年当たり１学級といった学校が増えている現状から、新たな指標として、充実した学びを展開するには、１学級当たりは何人程度がふさわしいかという視点で審議がされております。審議にあたっては、現在の学校教育に求められております内容や市民アンケート調査の結果などを総合的に判断し、進めているところであり、本年７月頃を目途に答申をいただく予定であります。以上でございます。

○議長（金坂道人君）　河野英美議員。

○５番（河野英美君）　私、学校再編審議会を傍聴いたしましたが、委員の顔ぶれも変わって活発な意見が出ておりました。

国の適正規模、この言葉を盾に、本納地区の統合は推し進められた感もあります。これまで

の適正規模だと、統合後でもそれを満たしていない学校もあります。市独自の指標を持つということは、これは大きな一歩だと感じております。これから再編の検討がされていく中で、市長は稼ぐ力の醸成ということで、子どもを増やすお考えのように感じております。一方で、教育委員会としては、このまま人口増が見込まれないというお考えが前提のような感じがいたします。しかし、これはどちらが正しいということではなく、希望も持ちたいし、現実も見なければならない。見極めや決断は本当に難しいことだと思います。議論を重ね、方向性を共有して、子どもたちのためにしっかりとした再編を行っていただきたいと思います。

そして、統廃合があるということは、廃校の利活用、これも課題となります。文科省によりますと、少子化に伴い、全国で毎年約450校の廃校ができている中、74.1％が公共施設や体験交流施設、福祉施設などの用途で活用されています。また、地域資源を生かし、地域経済の活性化につながるような活用も増えてきているとのことです。不登校の児童生徒を対象とした学びの多様化学校。文科省は全国で300校の開校を目指しているということです。

昨年10月に、教育福祉委員会で宮城県白石市に視察に参りました。学びの多様化学校は、不登校の児童生徒さんの小中一貫の教育をしていらっしゃるところでございましたが、今年度の議会報告会に際し、市民の皆様からいただいた御意見の中にも、豊岡小を小中一貫校の学びの多様化学校にというものもありました。千葉市では、廃校を活用し、2030年に不登校の中学生を対象とした学びの多様化学校が開校します。統廃合で使われなくなった校舎は、歴史や思い出が詰まっております。地域の人々や卒業生が良かったと思ってくれる利活用をしていただきたいと思います。

地域を活性化したいといっても、商店街がにぎわえばいいのか。何かのブームに乗って、とにかく誰でもいいから来てくださいと言うのか。そうではなくて、成功している自治体に共通しているのは、まち全体で共有された将来像を持つことだと思います。自分たちのまちを行政と住民とで共につくっていく、そういうことだと私は考えております。この４年間、官民、民の力を借りましょう、一緒にやりましょうということを何度もここで提案させていただきました。この根底にあるというのは、地域に対する思いだと感じております。この４年間の議員活動の中で、茂原市には、思いを持つ人が大勢いるということを知りました。そして、言うのは簡単ですが、小さなことでも形にするというのが難しいということも学びました。別々のように見えても、様々な施策はつながっていると、そういったことも学びました。これからの茂原市が、より住んでみたいまち、住んで良かったまちとなりますよう、思いを持つ議員として、そして１人の茂原市民として、新しい市政に期待をしております。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（金坂道人君）　以上で河野英美議員の一般質問を終わります。

これをもって本日の議事日程は終了しました。

明日は午前10時から本会議を開き、議案第１号から第20号までの質疑後、委員会付託を議題とします。

本日は以上で散会します。御苦労さまでした。

午後０時08分　散会

―――――――――― ☆ ―――――――――― ☆ ――――――――――

○本日の会議要綱

１．一般質問

１．向後研二議員の一般質問並びに当局の答弁

①　災害対策対応、防災について

②　部活動地域移行について

③　令和７年度待機児童について

④　令和７年度予算編成について

２．河野英美議員の一般質問並びに当局の答弁

①　これからの施策について

○出　席　議　員

議　長　　金　坂　道　人　君

副議長　　田　畑　　毅　君

１番	竹　村　　聡　君	２番	小　倉　義　久　君
３番	御　園　敏　之　君	４番	工　藤　孝　弘　君
５番	河　野　英　美　君	６番	横　堀　喜一郎　君
７番	河　野　健　市　君	８番	高　山　佳　久　君
９番	石　毛　隆　夫　君	10番	岡　沢　与志隆　君
11番	向　後　研　二　君	12番	杉　浦　康　一　君
13番	小久保　ともこ　君	16番	中　山　和　夫　君
17番	細　谷　菜穂子　君	18番	鈴　木　敏　文　君
19番	平　　ゆき子　君	20番	ますだ　よしお　君
21番	三　橋　弘　明　君	22番	常　泉　健　一　君

☆　　☆

○欠　席　議　員

な　　し

☆　　☆

○出席説明員

市長	市原　淳君	副市長	大石　学君
教育長	富田浩明君	総務部長	渡邉正統君
企画財政部長	平井　仁君	市民部長	中田喜一郎君
福祉部長	中村一之君	経済環境部長	髙橋啓一君
都市建設部長	白井　高君	教育部長	佐久間尉介君
総務部次長 (総務課長事務取扱)	菅谷直博君	企画財政部次長 (企画政策課長事務取扱)	佐久間栄一君
市民部次長 (生活課長事務取扱)	飯島博美君	福祉部次長 (社会福祉課長事務取扱)	鬼島啓太君
経済環境部次長 (農政課長事務取扱)	小髙一宏君	都市建設部次長 (土木建設課長事務取扱)	積田　篤君
都市建設部次長 (都市整備課長事務取扱)	丸　利幸君	教育部次長 (教育総務課長事務取扱)	新木和敏君
職員課長	神馬幹夫君	財政課長	安田博彦君

☆　☆

○出席事務局職員

事務局長	白井　康史
局長補佐	東間　一博
議事係長	金綱　邦彦